日本科学者会議

京都支部ニュース

5 月号 No.339

2012 年 5 月 11 日発行

〒604-0931 京都市中京区二条通寺町東入榎木町 95-3　南館 3 階
Tel/Fax：075-256-3132
E-mail：kyoto_kagakusha_2@yahoogroups.jp
URL：http://web.kyoto-inet.or.jp/people/jsa-k/
ゆうちょ銀行振替口座　加入者名：日本科学者会議京都支部　　口座番号：01050-6-18166

・・・・・・ 目　次 ・・・・・・・

◆ 京都支部第 46 回定期大会（5/20）のお知らせ ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1
● JSA 若手春の学校@あいち（3/22～23）の感想 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・2
● 個人懇 5 月例会（5/6）「初等・中等教育における原発・放射能教育」報告 ・・・・・・・・・・・・2
● 関西技術者研究者懇談会例会（5/6）「橋本維新の会」報告 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・3
● 第 7 回『日本の科学者』近畿地区サポーター会議（4/22）報告・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・4
● 第 33 回原子力発電問題全国シンポジウム第 1 回現地実行委員会（5/7）報告 ・・・・・・・・・・5
● 投稿：本の紹介楠戸伊緒里『放射性廃棄物の憂鬱』詳伝社新書 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・6
■ 講演会・研究例会などの案内 ・・6
・『日本の科学者』読書会（6/8）「科学者の社会的責任」
■ 近畿地区協議会活動への寄付のお願い ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・7
◆ 支部幹事会・事務局だより ・・8
■ 挟み込み付録：JSA 近畿地区の催し物案内「JSA 近畿 No.43.40」

京都支部第 46 回定期大会のお知らせ

以下の日時・会場にて京都支部の定期大会を開催いたします．今回の大会では，支部規約の改正が提案されます．代議員に選出された会員は必ず出席してください．また，代議員でない会員の出席も大歓迎ですので，ふるってご参加ください．

日時：2012 年 5 月 20 日（日）午後 1 時 30 分～5 時
会場：キャンパスプラザ京都 6 階　龍谷大学サテライト教室

JSA 若手春の学校＠あいち（3/22～3/23）

「若手春学校」参加者の感想

去る3月22日(木)～23日(金)の一泊二日で，ＪＳＡ若手春の学校＠あいちがウィルあいち愛知県女性総合センターにて開催された．春の学校は，修士論文や博士論文を執筆した院生による研究報告を中心とした企画であり，ここ数年定着してきたものである．例年は，全国規模での開催を目標とし，実際その形で開催してきたが，今年は愛知支部の若手拡大の可能性もあり，東京と愛知での別開催となった．関西からは，京都支部より３名，兵庫支部より１名の計４名が参加した（当初は，京都支部，大阪支部，非会員からさらに１名ずつが参加する予定だったが，インフルエンザなどの関係でキャンセルとなった）．全体での参加者は20名弱であった．

研究発表会では，博士論文２本（構想報告１本），修士論文３本が報告された．報告内容は教育学から理学系と幅広いテーマであったにも関わらず，専門が離れている参加者にも理解してもらえるよう工夫されており，活発な議論が展開された．また，２日目の午後には，3.11以後の社会運動と若者を題材としたシンポジウムが開催され，東京や各地での脱原発デモ，またアラブの春やオキュパイウォールストリートといった世界中での民主主義の流れについて議論が交わされた．同テーマは，19総学の若手分科会のテーマでもあり，今後深めていく意義や方向性を考えるきっかけとなった．

研究会以外にも，夜遅くまで交流の機会が設けられ，自由闊達かつ真剣な議論が交わされた．以前から繰り返し，機会があるごとに述べているが，若手の多くはより一層自分の研究領域に没頭する必要に迫られている．その中において，多少無理矢理にしろ，専門外の人間と議論し交流する機会は本当に貴重なものである．加えて，進学を考える学部生の参加もあり，彼らとの交流を通じて改めて研究する意味を考えさせられた．引き続き，今回のつながりや発見を次回以降の企画に活かし，若手が生き生きと研究していけるよう努力していきたいと思う．

（京大経済分会：T・K）

個人懇５月例会（5/6）報告

小・中等教育の原発・「放射能」教育の問題点とその克服

５月６日（日）東山いきいき市民活動センターで個人懇５月例会（13：30～15：00）と個人懇第14回総会（15：15～16：30）が開かれた．以下，例会の報告．ここでは，小野英喜さんが「小・中等教育の原発・『放射能教育』の問題点とその克服」について話しをされた．

福島原発事故の１ヵ月後に理系学生と文系学生300人にアンケートしたところ，放射能の説明ができるのは理系で5%，文系では0，同位体を知っているのは理系で68%だが，文系では2%，と惨憺たる結果であった，という．ちなみに，理系は中高の理科・数学免許希望，文系はそれ以外の免許と小学校教員免許希望の学生．広島・長崎に落とされた原爆の核種が答えられたのは理系で10%，文系で4%であった．これでは生徒たちに原発や放射能について教えられるわけがない．どうし

てこんなになっているのか.

2000 年以降のゆとり教育の中で中学では原子の基本概念が教えられていない．化学を学ぶ高校生は約 60%なので, 40%は中学の知識しかないことになる．しかも，高校生で原子や原子核を学ぶのは 15%程度という.

一方で，歴代政府・電力会社は，「原子力教育支援事業」として小中高校生などに出前授業や施設見学，ポスターコンクールなどを通して原子力の「安全神話」を植え付けてきた. 文科省は，原子力や原発に学習のために教科書以外の教材を学校に配布してきた. 例えば, 小学用には「わくわく原子力ランド」，中学用には「チャレンジ！原子力ワールド」など. 1995 年に「もんじゅ」が事故を起こした時は, 文科省は A4 判 12 ページのパンフレット「もんじゅ」を配布した．その中で，原子力学会会長の河合氏が，安全審査は，科学的，技術的，工学的判断できわめて専門性が高く，原子力安全確保は，他の産業に比べて大変しっかりしている，と強調している，という.

今回の福島原発事故を受けて文科省は「放射線副読本」を作成し全国の学校に配布した. しかし副読本には看過し得ない問題点がある. 例えば，福島原発事故，放射能の環境影響, 自然放射能と人工放射能の違いなどについてまったく触れていない. それにもかかわらず, 100 ミリシーベルト以下では人体に影響はないと言わんばかりの記述がされている.

このような文科省の「服毒本」に対抗して, 京都教育センターでは小学校から高校までの教師用資料として「原発・放射能をどのように教えるか」(仮題) を作成中とのことである. 完成が待たれる.

(個人懇：宗川吉汪)

関西技術者研究者懇談会 5 月例会（5/6）

「橋下維新の会」報告

日時：2012 年 5 月 6 日（日）14 時～17 時
場所：JSAO 事務所
参加者：5 名

「橋下維新の会は何を狙っているのか」
久志本俊弘氏

弁護士，タレントであった橋下徹氏（１９６９年６月生）は２００８年大阪都構想や道州制など地方分権を唱え，大阪府知事に就任した．２０１０年地域政党「大阪維新の会」を設立し自ら党首となる．２０１１年統一地方選挙で勝利し，大阪府議会で単独過半数, 大阪市議会では議会第一党．秋の大阪府知事選挙と大阪市長選挙でも，元市長の平松氏を破って当選し，大阪維新の会松井氏も大阪府知事に当選した．これで橋下維新の会の目指す「大阪府と大阪市の一体化」が加速される状況となっている.

維新の会は元自民党右派勢力を中心に組織されており，維新政治塾を作って次の衆議院選挙に候補者を擁立すべく，全国から２０００人の塾生を集めて国会進出を画策している.

橋下維新の会の考えを貫くものとして「独裁主義・競争力至上主義・教育に対する政治の介入主義」と二宮教授が批判している．教育条例での国歌斉唱・国旗掲揚に関する厳罰主義は，教育基本法１６条に定めた「教育は不当な支配に服することなく行われるべき」の条文に違反するものである．また天皇の元首化や議会の一院制，憲法の改悪など戦前の暗黒政治をめざすような政策が目立つ．

原発問題について，３．１１事件後の情勢を見た橋下氏は反原発を表明してきたが，２０１２年４月２６日関西広域連合の会議では「原発の再稼動を認めなければ(府県民には)応分の負担がある」と発言するように，基本的に住民の立場に立っていないことに注意しなければならない．

討論

★ＪＳＡ民間委員会は橋下市長に対し市職員にたいする思想調査に抗議した

★橋下氏は長引く不況，閉塞感をうまく利用して人気を得てきた

★教育を「競争」「弱肉強食」の場に変えようとしている

★橋下氏は小泉元首相と同じように労働組合，公務員パッシングで人気取りをしている

★橋下市長のリコール運動を起こすべきだ

これからの日程

日時：６月３日（日）

テーマ：三通を体験，企業・大学との交流

報告：山口進次氏

（文責・山口進次）

第７回『日本の科学者』近畿地区サポーター会議（4/22）の報告
『日本の科学者』の誌面改善のために

日時：2012 年 4 月 22 日（日）13 時 30 分～16 時 30 分

場所：JSA 京都支部事務所

出席：小森田（大阪），島影（大阪），長野（大阪），前田（京都），日下（京都），宗川（京都）

出席者の近況報告の後，4 月 7 日編集委員会議事録に基づき，宗川が『日本の科学者』編集の進捗状況を報告した．原発災害問題ブックレットが予定通り出版されることになったことが前田から報告された．

投稿論文の推薦について

・医療問題についての安場氏の投稿論文について，寺岡敦子氏にコメントを依頼した．インフルエンザワクチン，狂犬病予防接種についての論文の提案もあった．

・工繊大の学長選挙問題について，他の大学の事例も含めて，11 月号特集「大学の法人化の今」へ投稿したい（前田，宗川）．

・裁判の後解散に追い込んだ「人体の不思議展」に関する論文を投稿したい（宗川）．

・薬害イレッサ問題で，同訴訟弁護団の住田氏（御池総合法律事務所）に投稿を勧める（長野）．

・5 月 6 日開催の複雑系科学ワークショップにおける報告の投稿依頼を検討する（長野）．

4 月号，5 月号講評

5 月号特集は大学関係に特化している／5 月

号の理科教育問題論文に共感／5 月号草野論文の式の取り扱いが定まっていない．本文中にあるのが望ましい／被災地におけるレイプ問題論文の引用の信頼性に疑問／特集まえがきに複数ページを当て，図などもいれて，それだけを読んでも面白い記事として欲しい／数字，単位の表記を厳密にチェックし，改善されることを望む．

サポーター会議旅費を近畿地区会議に請求し，旅費は各支部を通じて支払われることになった．次回のサポーター会議は 6 月 24 日（日）13 時 30 分から京都支部会議室で開催．

（個人懇：宗川吉汪）

「第 33 回原子力発電問題全国シンポジウム」のための
第 1 回現地実行委員会の報告　幹事 富田道男

来る 8 月 25（土）と 26 日（日），“第 33 回原子力発電問題全国シンポジウム”が福井県敦賀市で開催されるが，その現地実行委員会が 5 月 7 日（月）午後 1 時から福井大学で開催され，現地実行委員会としての素案作りを行った．

最初に大飯原発 3，4 号機の再稼働をめぐる情勢について福井支部の山本雅也氏から次のような報告があった．

4 月 26 日に「おおい町説明会」が開催されたが，予想に反して「慎重論」や「反対意見」が「安全の条件付きやむなき賛同」より多かった．漁民の一人は「事故が起これば避難ができない．説明不足」を理由に再稼働に反対した．町長は，これで一段落したとは言えないとして，町議会との相談を表明し，経済産業省副大臣は，住民の了解なしには再稼働はできないと言った．

本日（5 月 7 日）午前中におおい町議会の全員協議会が開催されたが，地方自治法により秘密会とすることがマスコミと傍聴者に告げられた．これに対して，マスコミと傍聴者から公開するよう申し入れが行われたが，5 分で閉会となり，今後，全員協議会としては、3,4,5 安全面・経済面・まちづくりの 3 つの分科会で検討し全員協議会としての「シナリオ作り」をするらしい．

以上の報告に基づく現地実行委員会の議論では，知事としては再稼働の結論を出したいのであろうが，現実にはかなりの数の慎重論があり，結論はまだ先になるのではないか，ということであった．

次に各支部の状況について，参加した石川，京都，福井の各支部から原発問題に対する取り組みの報告が行われた．

その後，現地実行委員会の目的である第 33 回シンポジウムのメインテーマと内容について議論し，原案として，メインテーマを「原発に依存しない社会をどう作るか」とし，初日のテーマを「福島事故は現在どうなっているのか，なぜ起きたのか」として，4 つの報告と報告予定者を挙げ，これを受けて二日目には「原発事故を踏まえて，今後の進むべき道をさぐる」をテーマにして，同じく 4 つの報告と報告予定者を挙げた．これを全国実行委員会に諮り，その結果を得て，次回の現地実行委員会を同じ場所で 6 月 18 日（月）午後 1 時開催とすることを決めて散会した．

投稿：本の紹介　　(2012 年 3 月 10 日発行，780 円)

楠戸伊緒里『放射性廃棄物の憂鬱』詳伝社新書

個人懇・小林芳正氏

著者は元動力炉・核燃料開発事業団研究員の化学専攻の研究者．参考文献 140，参照ウェブ 50 で，これまでの放射性廃棄物処分関連のどの資料よりも詳細と思われる新著で，関心のある人に一読を勧めたい．

高レベル放射性廃棄物処分の最先進国，フィンランドの経験から説き起こし，次いで放射性廃棄物の種類とそれらの厄介な性質，処分法の特徴について詳しい解説がなされた後，世界の処分法の主流となっている地層処分について解説が行われる．

日本のこれまでの処分の実際と，今後どうするつもりなのか，歴史と計画が紹介され，処分の費用についても論じられる．さらに世界各国の情勢が，米，仏，スウェーデン，独，露，中，韓国のそれぞれの政策，経過について詳しく紹介される．

最終章は「放射性廃棄物と人類の未来」と題され，廃棄物の量や危険性を減らす技術，多国間核燃料サイクル構想などが紹介されるが，著者の意見は必ずしも明確ではないのが惜しまれる．まだ結論を出すのが時期尚早の難問だからかもしれない．

いずれにせよ，中間貯蔵で少なくとも 30－50 年，その後の地層処分で放射能レベルが安心できる値まで下がるのに，10 万年という人類史以上の長年月が必要であることが説得力を持って語られる．

講演会・研究例会の案内　（付録の「JSA 近畿」No.43.40　も参照）

『日本の科学者』読書会の案内

2012 年度最初の読書会です．読書会に引き続いて幹事会が開催されます．みなさま，読書会と幹事会の両方にふるってご出席ください．

テーマ： 4 月号特集「科学者の社会的責任」
日時：6 月 8 日（金）15：00～17：30
担当：長田論文（宗川吉汪），沢田論文（菅原健二），豊島論文（鈴木博之）
場所：支部事務所

「近畿地区協議会」活動への寄付のお願い

近畿地区（滋賀，京都，兵庫，大阪，奈良，和歌山支部）の会員の皆様へ

今期の近畿地区協議会は，活動の発展を期して，地区活動の財政的裏付けをするための試みに取り組んでいます．地区活動のうち，地区協議会の参加交通費は全国より実費が支払われます．しかし各地区の会議は，年２回までとして予算が組まれているのが現状です．また，地区主催のシンポジウムなどに対して１回３万円の補助がありますが，これも年１回が限度となっています．さらに今期より，機関誌『日本の科学者』の近畿選出編集委員と近畿在住のサポーターが中心となって「近畿地区サポーター会議」が設置され，隔月に会議がもたれています．出席者の交通費は，今年度は編集委員会費から２万円が補助されますが，すでに６回の会議が開かれていて，不足分は地区の手持ち財源約７万円から支出されることになります．独自財源を持たない地区活動を活性化すればすぐに地区財政は破たんすることは明らかです．

第１回地区協議会（８月９日，大阪支部事務所）において「各支部が所属会員一人当たり年100 円を地区に拠出する」ことが提案され，各支部持ち帰って相談しました．その結果，奈良支部と和歌山支部は支部費をもたないことが判明したことから，第４回地区協議会（2 月 17 日，京都支部事務所）において，これの実施は困難であると判断されました．そこで寄付により財源を賄う案が提起・検討され，とりあえず今期は地区協議会として，地区各支部の全会員の皆様に地区活動活性化のための寄付を次の要領でお願いすることにしました．
ご理解とご協力のほどよろしくお願いします．

１口 1,000 円とし，口数は，小数点も含めて，自由とする

寄付金のお振込みには，同封の「ゆうちょ銀行」の用紙をご使用ください．振込先は，今期地区財政担当の大阪支部の口座となっています．

問い合わせ先：
地区担当常任幹事　後藤隆雄（電話 0787530712）　富田道男（電話 0774382308）

☀-☀-☀-☀-☀-☀支部幹事会・事務局だより☀-☀-☀-☀-☀-☀

4 月 20 日開催の第 13 回幹事会の報告です．通常ならこの日は事務局会議でしたが大会に向けて幹事会にしました．5 月初めの幹事会は連休のため 5 月 11 日になりました．行事の予定や報告は記事をご覧ください．

1. 転入

橋本貴彦さん（立命館大学経済学部　准教授）が島根支部より転入されました．

2. 会費納入状況

4 月 20 日時点での会費納入率は 89.0%です．5 月からは 2012 年度に入りました．未納者はすみやかに納入ください．

3. 支部第 46 回定期大会について

4 月 26 日（木）に全会員に大会案内と議案書を送付した．

日時：2012 年 5 月 20 日（日）13：00～17：00
場所：キャンパスプラザ京都 6 階　龍谷大学サテライト教室
代議員および次期幹事の選出状況（5 月 8 日）

	会員数	代議員（1／10）		幹事（1／30）	
京大経済	11	1	加賀美	1	加賀美
京大宇治	6	1	上野	1	上野
京大医学	5	1	菅原	1	菅原
立命教員	53	5	朝尾，三浦，石倉 長谷川，市井	2	三浦，市井
立命院生	10	1		1	
龍谷	18	2	細川，好広	1	細川
府立大	12	1		1	
工繊大	3	1	前田	1	前田
橘	12	1		1	
個人懇	153	15	富田，鈴木，清水， 末満，山本， 藤井，西尾，小林， 田中，上野恭平， 和田明，宗川 竹田（委任状）	5	富田，鈴木，山本， 宗川，山口
合計	283	29		15	

（文責：宗川吉汪）